



令和3年度

# 山形県発掘調査速報会

令和4年3月6日(日) 13:00 ~ 16:00

山形県生涯学習センター 遊学館 2階ホール

【主催】山形県 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター  
【共催】山形市 米沢市教育委員会 大石田町教育委員会

# 令和3年度 山形県発掘調査速報会

主催 山形県 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター  
 共催 山形市 米沢市教育委員会 大石田町教育委員会  
 日時 令和4年3月6日(日) 13:00～  
 会場 山形県生涯学習センター 遊学館 2階ホール

- 12:00 開場
- 13:00 開催挨拶
- 13:10 令和3年度の県内の発掘調査の概要について

(山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財活用課)

- 13:30 報告① 史跡山形城(山形市)
- 13:50 報告② 山形城三の丸跡  
(山形県埋蔵文化財センター)
- 14:10 報告③ 史跡館山城跡  
(米沢市教育委員会)
- 14:30 休憩
- 14:50 報告④ 駒籠橋跡(大石田町教育委員会)
- 15:10 報告⑤ 水林下遺跡  
(山形県埋蔵文化財センター)
- 15:30 報告⑥ 杉沢C遺跡  
(山形県埋蔵文化財センター)
- 16:00 閉会



遺跡名	調査回数	所在地	種別	時代	調査面積	調査日程	起因事業
史跡山形城跡(本丸北堀跡)		山形市	城館跡	中世・近世	1,500㎡	5月18日～ 12月10日	史跡山形城跡整備事業
山形城三の丸跡	第22次	山形市	城館跡 集落跡	奈良・平安・中世・ 近世	830㎡	6月21日～ 10月28日	山形広域都市計画道路事業3・2・5旅籠町八日町線
史跡館山城跡		米沢市	城館跡	中世・近世	26㎡	9月13日～ 11月30日	保存・整備目的の内容確認調査
駒籠橋跡	第17次	大石田町	集落跡 館衙跡 城館跡	縄文 古代 中世・近世	391㎡	10月4日～ 10月25日	保存目的の範囲確認調査
水林下遺跡	第2次	遊佐町	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安	2,410㎡	6月15日～ 11月30日	日本海沿岸東北自動車道建設事業
杉沢C遺跡	第2次	遊佐町	集落跡	縄文・中世・近世	1,160㎡	6月22日～ 9月10日	農地整備事業(経営体育成型)杉沢前田地区
史跡左沢橋山城跡		大江町	城館跡	中世・近世	140㎡	8月26日～ 11月18日	史跡整備事業
史跡慈恩寺旧境内関連遺跡(上の寺遺跡)	第16次	寒河江市	集落跡 社寺跡	中世・近世	10㎡	11月9日～ 11月16日	保存目的の範囲確認調査
寒河江城三の丸跡		寒河江市	城館跡	中世・近世	88㎡	8月30日～ 9月14日	個人住宅建設工事
長岡南森遺跡	第4次	南陽市	集落跡ほか	縄文・弥生・古墳・ 平安・中世	145.3㎡	5月12日～ 7月20日	保存目的の範囲確認事業
大在家遺跡・高畑城跡	第21次	高島町	集落跡 城館跡	飛鳥・奈良・平安 中世・近世	2,346㎡	6月23日～ 9月30日	宅地造成工事
米沢城跡	第18次 (市教委実施分)	米沢市	城館跡	中世・近世	52㎡	8月30日～ 9月13日	宅地造成工事
威徳寺北遺跡	第1次	米沢市	集落跡	奈良・平安・中世・ 近世	400㎡	5月17日～ 6月25日	宅地造成工事

山形城跡の本丸北堀土橋跡は、本丸北門にかかる土橋跡です。山形城は最上義光により近世城郭に拡張されます。元和8年（1622）改易後、鳥居忠政による大改修で本丸一文字門と本丸北門が造られました。

北門石垣跡は旧市営球場の地下にあたり上面はカクランにより失われていましたが、土橋の両岸に石垣が見つかりました。土橋の幅は約14 mあり、正保城絵図の記載にある七間半（13.5 m）に一致しました。また、石垣の特徴は安山岩の玉石を積み上げたもので二ノ丸の北門・南門の割石による石垣とは異なる様相でした。

また、周囲の堀内には多数の石垣石材が崩落した状態で見つかりました。これは明治時代に北門の石垣を崩して埋め立てた跡です。この石垣石材は安山岩のほか、流紋岩による割石が多数含まれます。流紋岩は現存する二ノ丸の石垣にはほとんど用いられていない石で、二ノ丸土塁にある隅櫓の櫓台石垣に多く使用されています。

北堀跡の調査では、黒色の鯨瓦が出土しました。鯨瓦は顔の部分で非常に珍しいものです。  
（五十嵐貴久）



本丸北門土橋西岸石垣調査状況（北西から）



本丸北門土橋東岸石垣及び堀内崩落石垣検出状況（北東から）



本丸北堀（北西隅部）堀底より出土した黒鯨瓦（顔部）全高約1.5 m（推定）で現存高約31センチ

山形城三の丸跡は、最上義光が整備拡張した近世城郭山形城の一部で、二の丸を取り囲む広大な範囲であり、現在はほぼ市街地化しています。また、本丸と二の丸の範囲は国の史跡に指定されています。今回で22次調査になり、調査区は平成26～28年度に実施された都市計画街路3・2・5旅籠町八日町線の七日町工区での調査に引き続く本町工区を対象として実施しました。遺跡の時代は奈良時代から江戸時代にかけての期間です。広大な山形城三の丸跡は、最上氏の時代に武家町として整備されましたが、最上氏改易後は山形藩の縮小に伴い、領主が交代するごとに武家屋敷はまばらとなり、江戸時代後期の秋元、水野時代にはほとんどが畑地として利用されていました。前回調査した七日町工区は三の丸の大手門周辺で武家屋敷が存続し続けたこともあり、江戸時代後期の秋元、水野期中心にした遺構・遺物が多く検出・出土しました。

今回の発掘調査では、北側の1区からは引き続き江戸時代後期を中心とした遺構・遺物を確認出来ました。しかし、江戸時代後期以降は畑地であった2・3・4区からは、江戸時代の遺構に一部壊されながらも、8世紀後半ごろの遺物を伴う竪穴住居跡や土坑などが確認されました。そのほかに溝跡、柱穴など

も検出されています。

古代の竪穴住居跡は、2・3・4区からそれぞれ1棟ずつ合計3棟確認されましたが、いずれも8世紀後半ごろのほぼ同時期のものになります。いずれの竪穴住居も一辺が8mほどもある大型のもので、壁面に柱列が並んでいました。

これまでの山形城三の丸跡の東側の調査では、古代の遺構・遺物がまとまって確認されていませんでしたが、2区以南に古代の集落が広がっていた可能性が出てきました。他にも、江戸時代前期の陶磁器や遺構も少数ではありますが確認されています。

今後の調査で古代の集落や江戸時代前期の遺構確認などが期待されます。（齋藤健）



3区竪穴住居跡（西から）



2区竪穴住居跡（北から）



4区竪穴住居跡（南から）

史跡館山城跡は、米沢市西部の大字口田沢・館山地内の丘陵上に築城された山城と、それに伴う東館・北館と呼ぶ山麓居館（根小屋）で構成される城館跡です。平成28年3月1日付けで国の史跡となりましたが、市内の開発事業に伴う緊急発掘調査対応で事業を一時休止しており、昨年度から発掘調査を再開しています。

今年度の調査は、曲輪Ⅱ・Ⅲ間の堀切北側にある高まりの機能の確認（F-1区）及び、山城北側の登城路の確認（F-2・3区）を目的として実施しました。

調査の結果、F-1区の性格不明の高まりは、大正8年（1919）に建設された館山発電所の導水路敷設工事で発生した残土置場と判断され、館山城が機能していた戦国～江戸時代初期には存在しない遺構であることがわかりました。残土の周囲には平坦地がみられ、本来は平場であったと考えられます。山城に伴う遺構として、上幅約3.4m、深さ約1.1mの横堀を確認しました。この横堀は、場所により規模は異なりますが、曲輪Ⅰ・Ⅱ北側斜面で用いられており、後述するF-2区でも確認しています。

F-2・3区は、かつて山道として使われて

いた場所に設定しました。掘り下げたところ、導水路工事で発生した残土が2m以上堆積している状況を確認しました。ここで見えていた山道の名残は、大正時代以降に形成されたものと考えられます。残土下には廃城後の堆積土があり、それを除去することで地山を削った切岸（人口斜面）を確認しましたが、この面でも通路と考えられるような平坦地は確認されませんでした。

今年度の調査では、廃城後に行われた山城西側の改変状況がわかってきました。これらの新しい要素を取り除いて考えることで、館山城が機能していた当時の姿をより具体的に明らかなる手がかりを得ました。（佐藤公保）



F-2区 調査区北側西壁の堆積状況（東から）



F-1区 大正時代の残土山と横堀（西から）



F-2区 調査区南側の横堀（南西から）

駒籠楯跡は、大石田町の北西部に位置する駒籠集落の南東部に所在し、野尻川と最上川の合流点近くの右岸側に立地します。標高は約 66 m で、周囲よりは一段高い昔から水害の恐れがない安全な高台だったと考えられます。

遺跡地はかねてより「延喜式」に記載された古代の駅家（うまや）「野後駅」ではないかと注目され（新野直吉 1963）、町の教育委員会でも古代の遺構や遺物の存在を確かめる目的から、1998・1999 年の二カ年にわたって当該地区一帯の試掘調査を行っています。その結果、「土井ノ前」地区を中心とする駒籠楯跡の内部に古代の遺構や遺物が濃密に分布していることが明らかとなりました。こうして始まった駒籠楯跡（推定野後駅）の発掘調査は通算で 17 次を迎えています。今年度の調査目的は駒籠楯跡 I 期に属する竪穴建物の規模や時期を探ること、また、駒籠楯跡 II 期に関わる南北軸の建物跡についてその規模・時期等の検討を進める手掛かりを得ること等を目的としています。

発掘調査により見つかった遺構には、超大型の竪穴建物 1 棟（南北 9.7 m × 東西 8.7 m）を含む竪穴 4 棟、駒籠楯跡 II 期の時期（9



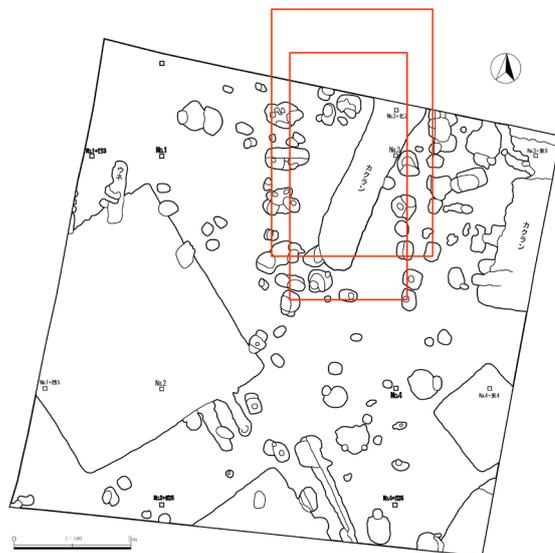
調査区遠景（西側上空から）

世紀代）で、1 間 × 5 間規模（南北棟）の長舎となる掘立建物跡 2 棟（重複）、溝跡 1 条、土壇複数基（縄文期）などがあり、遺物では須恵器・土師器、縄文土器・石器等が出土しました。

今回の調査では、駒籠楯跡 I 期に関わる大型竪穴建物跡の全形が検出でき、建物跡に関わる須恵器等も発掘することができました。また、軸を同じくする中小規模の竪穴がまとまって見つかったことも成果として特筆されます。最後に、調査にご協力いただきました関係機関他の各位にお礼申し上げます。（阿部明彦）



第 17 次調査検出遺構全景



第 17 次調査検出遺構概要図

水林下遺跡は、秋田県境そばに所在し、鳥海山西麓にあって、日本海にも飛島にも近い場所に立地した遺跡です。今回の調査は2次調査になります。昨年度設定したC区を東・西・北に分けて調査を行いました。

遺跡の時代は旧石器から近現代になります。おもに、旧石器時代の打製石器が多数出土しました。上層からは、縄文時代の土坑、古代の竪穴住居跡、近現代の溝跡や柱穴などが検出されました。

旧石器は、昨年度に旧石器が出土したB区の北側に隣接するC区東から発見されました。1次調査では、B区西側の黄色のローム層から、台形石器を含む約150点の打製石器が出土した約4～5mの範囲の石器集中部（第1ブロック）が検出されました。2次調査では、1次調査で発見された第1ブロック北側の続きと、そして第1ブロックの北東に隣接する新たな8～10m範囲の第2ブロックが検出されました。2次調査で出土した石器は、合計で300点近くになります。

さらに、第1ブロックと第2ブロックの間からは、透閃石岩（ネフライト）製の磨製石斧が発見されました。この透閃石岩は鑑定の結果、富山県と長野県境付近で産出する良質の石材であることが判りました。近隣で採取できない石材のためか、作り直しや使い込みによ

り、元の形から著しく変形していました。この斧のほかには、透閃石岩製の剥片やチップも出土しました。

出土した石器群は、その特徴と1次調査出土の炭化物による放射性炭素年代測定により、約3.5万～2.8万年前の後期旧石器時代前半期のものと判りました。このことから、本遺跡の磨製石斧が当該時期の県内初の出土事例、かつ県内最古の事例と言えます。また、当該時期は全国的に複数の石器ブロックが環状をなすことが多く、隣接する未調査区にブロックがある可能性があります。

同時期の秋田県秋田市地蔵田遺跡でも、同種の磨製石斧が出土しており、日本列島に確実にヒトが現れた初期の頃にすでに、北陸と東北地方の環日本海をめぐるヒトとモノの往来があり、本遺跡もその経由地の一つであったことが考えられます。（大場正善）



第1ブロック出土の旧石器



県内初出土・県内最古の透閃石岩製磨製石斧



9万年前に噴出した大平溶岩の上に遺跡が立地

杉沢 C 遺跡は、山形県北西端にあたる遊佐町杉沢地区に位置する縄文時代と近世の集落遺跡です。鳥海山麓の小盆地を流れる月光川支流の熊野川の左岸に立地しており、1953（昭和 28）年に石囲いの中から横になった完全な形の土偶が発見されて有名になった杉沢 A 遺跡からは、600 m ほど東に離れています。また熊野川の対岸には、1978（昭和 53）年に国の重要無形民俗文化財に指定された番楽（山伏によって舞われる神楽）「杉沢比山」の舞台となる熊野神社があります。

発掘調査は令和 2・3 年の 2 カ年にわたり実施されました。調査区は熊野川南岸に沿っており、全体がかつての河道跡になっていま

す。河道が埋没する過程において、縄文時代の人々の生活の痕跡が認められており、縄文時代中期前葉（大木 7b 式）～晩期末葉（大洞 A' 式）までの土器が出土しました。特に今回の調査では後期前葉（南境式期）の土器がまとまって出土しました。縄文土器は地文だけの深鉢（粗製土器）が多く、装飾された土器は少なく、川の側で煮炊き等の作業を行っていたと推測されます。

近世では、建物の柱穴と思われるピットが多数検出されました。調査区域に鳥海山で修行する山伏の宿坊があったことを示す絵図が残されており、昨年と同様にそれを裏付ける成果を得ることができました。（小林圭一）



右側（東）が近世の柱穴群が検出された D 区、左側（西）が縄文土器が多く出土した E 区です。



調査区（中央下方）を南側から撮影した空中写真です。上方が鳥海山、右側の杉林が熊野神社です。



縄文土器（後期前葉）が潰れて出土しました。



近世の建物跡の柱穴群の検出状況です（D区）。

国指定史跡左沢楯山城跡は、左沢の市街地北方の稲沢山丘陵に、最上川を眼下に見下ろすように築かれた山城の跡です。寒河江大江氏の一族である左沢元時が正平年間に築城し、天正12年から最上氏の支配下に置かれ、元和8年の最上氏改易と酒井氏の左沢藩成立に伴い廃城となりました。

現在城跡では、散策路設置や遺構表示など史跡の整備事業が進められています。

2021年度は整備事業のための発掘調査として、城を南北に分断する蛇沢沿いの管理用道路下と、2017年から継続している寺屋敷上部曲輪で調査を行いました。

蛇沢沿いの調査では、岩盤の成型と盛土により道状の平場を造成した跡や、沢と直交する方向に並ぶ柱穴跡が見つかりました。この場所は、最上川沿いから城の中核部へ至るルートとして使用された可能性があります。

また、寺屋敷上部曲輪では、これまでの調査に続いて、楯山の岩盤を掘って柱を立てた掘立柱建物跡や長さ2 m程の方形の掘りこみの一部などを確認しました。すぐ近くに迎賓館的な役割を担ったとされる曲輪「寺屋敷」があるため、そこで使う什器をしまう倉庫や工房

の痕跡の有無など、「寺屋敷」との関係をもふまえて、曲輪の性格を明らかにすることが今後の課題です。  
(水戸部泰子)



寺屋敷上部曲輪で検出した掘立柱建物跡。岩盤を掘って柱を立てています。



蛇沢沿いの調査区で検出した盛土跡。上面に粘土を張り付けています。



左沢楯山城跡と寺屋敷上部曲輪の調査区。奥を流れるのが最上川です。

上の寺遺跡は、中世期の慈恩寺に存在した寺院群の跡です。慈恩寺本堂の約 600m 東に聞持院跡と伝えられる平坦面が残り、そこから東方面には階段状の平坦面が展開し、院・坊屋敷地と考えられています。中世期の慈恩寺を明らかにするため調査を継続し、今回で第 16 次となります。

上の寺には鎌倉中期に薬師寺が建立され、その後正応 3 年 (1290) に虚空蔵菩薩を安置する求聞持堂が建てられて聞持院となりました。薬師寺の薬師三尊十二神将は聞持院で祀っていましたが、江戸前期に慈恩寺本堂脇に移されました。伝・聞持院跡の土塁から南方を望むと、寺院の正面を示すかのごとく、白鷹山（虚空蔵山）が真正面に見えます。

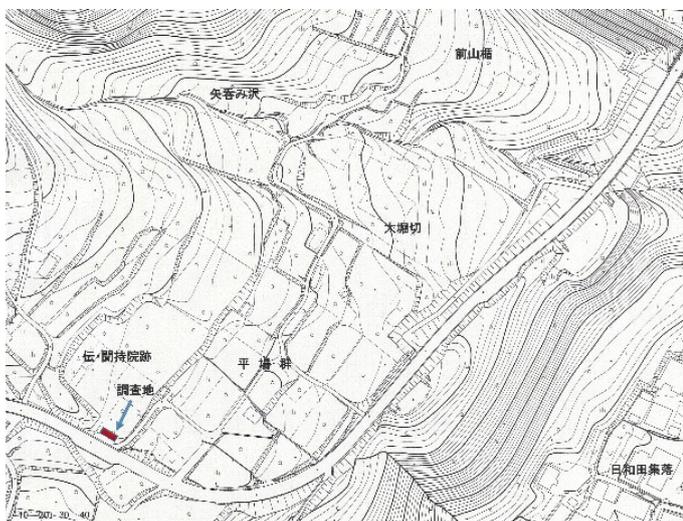
今次の調査は、上の寺遺跡伝・聞持院跡の正門を確認するため南側土塁の東平場を調査したものです。東西 5 m、幅 2 m のトレンチを設定し調査しました。遺構として、土塁から延長するような溝跡と溝両脇にピット群を検出し、遺物は近世陶磁器数点を検出したのみです。溝跡は伝・聞持院南側出入口部に関する遺構と見られます。（大宮富善）



発掘調査による遺構検出状況。中央に東西に走る溝跡が見つかりました（上が西）。



溝跡内部の底に小ピットを確認。



上の寺遺跡調査位置(伝・聞持院跡南側土塁の東隣)

寒河江城は、大江姓寒河江氏によって築造された城です。築城年代は不明ですが、8代時氏の南北朝期以降と伝えています。

城は寒河江市街地中心部（丸の内・南町）、標高 93～98 m の段丘上に位置し、連郭式平城で、三重の堀と土塁が巡らされていました。

本丸は東西約 100 m・南北約 160 m、二の丸は東西約 240 m・南北約 320 m、三の丸は東西約 420 m・南北 520 m で、南北に長い方形をしていました。三の丸の南に東西 400 m の堀・土塁を築き、守りを厚くしていました。

城は、堀の内側に土塁があり、さらに家臣屋敷かあって道があるという構造でした。

天正 12 年（1584）寒河江氏滅亡後、最上氏の城となりましたが、元和 9 年（1623）廃

城となりました。

調査地は、寒河江城廃城後、江戸期に水田となり、その後盛土されて家屋が建てられ町場が造られたとみられます。主な遺構として町屋の掘立柱建物跡、土坑、溝跡などが検出されました。遺物は主に近世後期の陶磁器類です。平安時代の遺物も検出されましたが、城に関係する中世期の遺物は未発見でした。

（大宮富善）



田んぼ用水溝跡と掘立柱建物跡（上が東）



底に曲物が据えられた土坑



寒河江城跡略測図（○今次調査地）

長岡南森遺跡は、南陽市長岡の南森丘陵に立地する縄文～中世の遺跡です。平成28年の測量調査において、破壊された古墳の可能性も視野に入れて慎重に考慮すべき丘陵と判断されました。そのため遺跡の性格と内容の確認に併せて古墳かどうかを確認するため、平成30年から確認調査を実施し令和3年度に第4次調査を実施しました。

南森丘陵の調査は、第1次～3次調査では、丘陵の北半部の調査を実施し、今年度からは南半部の調査を進めています。

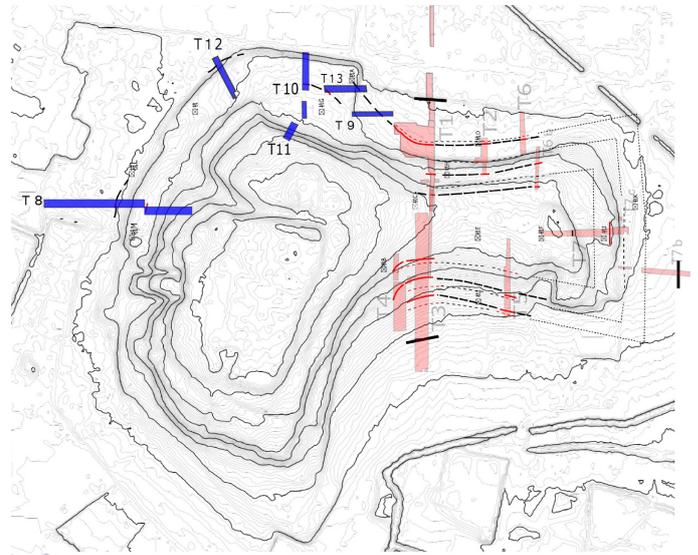
第4次調査では、南半部に6ヶ所トレンチを設定し確認調査を実施しました。

全てのトレンチで後世の大規模な改変を受けていることが確認され、丘陵の残存状況は著しく悪いことが分かりました。

T8・9・12トレンチでは、丘陵の外縁に低地とその低地との境となる低い段差が確認されました。

T13トレンチでは、地山の傾斜変換点や、丘陵の斜面が水平方向で円みを帯びる状況が確認されました。

T10トレンチでは、斜面途中に古代の<sup>たてあな</sup>縦穴<sup>じゆうきよあと</sup>住居跡が1棟検出されました。



長岡南森遺跡トレンチ位置図  
今年度はT8～T13を調査した

出土遺物は、これまでの調査では古墳時代の祭祀に関連するものが多い傾向があり、今年度も<sup>きだい</sup>器台等が出土しました。

その他に今次調査では、縄文前期・中期の土器、<sup>せつかん</sup>石冠<sup>ゆうぜつせんとうき</sup>や有舌尖頭器等の石器、「西」と刻まれた<sup>こくしよ</sup>刻書土器をはじめとする古代の土師器・須恵器等が出土しています。

今次調査で丘陵南半部にもその外縁に低地がめぐり、その境が段状になっていることや、丘陵の西斜面は水平方向に円みを帯びた地形であった可能性が確認されました。

(斉藤紘輝)



T13 トレンチ 斜面が円みを帯びる地形状況



T10 トレンチで検出された器台

だいざいけ たかばたけじょう  
大在家遺跡・高畑城跡

—古代の集落と絵図に  
描かれた外堀跡—

高 島 町

大在家遺跡は高島町中心部、高島小学校の南側に位置しています。他年次調査で飛鳥～平安時代の集落跡と河川跡が見つかっていません。遺跡の半分が中近世の高畑城跡と重複しています。平成3年度以降、今年度で第21次調査となります。

昨年度第20次調査（南側調査区）で河川跡の左岸が確認され、本調査（北側調査区）で右岸の一部が確認されました。第4次で上流部が、第18次で下流部が確認された河川跡と一致します。今回検出された河川跡は、大部分が高畑城の外堀によって掘削され壊されていることから、出土遺物は多くはありません。出土した須恵器の特徴から、他年次調査と同様の7世紀第4四半期から9世紀後半にかけての年代を示しています。また、調査区西側の一部で竪穴住居跡が2棟検出されました。カマドも見つかりましたが、いずれも住居全体の一部のみの検出で、近世の改変を受けて良好な状態ではありませんでした。ST1のカマドの構造は、土師器甕を伏せて両袖に転用していました。ST2はST1より古く、調査区外に伸びていました。甕の形態から竪穴住居も8世紀前半と考えられます。ST1東側に

炭・焼土の広がり認められる不明土壌があり、土師器甕が潰れた状態で検出されたことから別の竪穴住居跡の可能性が考えられます。ここからは須恵器の盤が出土しており、一般的な集落遺跡とは趣が異なる遺物が他にも数多く出土しています。

河川跡とほぼ同位置に構築された高畑城外堀跡からは内耳土鍋や灯明皿、曲物の他、ほぞ穴が伴う2.5～4mの木橋の部材が数本出土しました。当初の堀（室町時代か）を何度か埋立てし堀に架かる木橋を棄却、等間隔に打った杭で土留めした土橋を築いたと考えられます。この土橋が絵図に描かれた作場道であることが明らかとなりました。（鈴木大輔）



ST1・2 検出状況（北西から 右奥がカマド）



高畑城外堀跡から出土した木橋部材（南西から）



調査区全景（南から）と『高畑城絵図』での位置  
（実線部：内堀跡 点線部：調査区）

米沢城跡は、東を奥羽山系、南を吾妻の山塊によって画された米沢盆地の南部、松川（最上川）とその支流の羽黒川や鬼面川によって形成された扇状地に立地する平城です。

築城時期は明確ではありませんが、本格的に整備されたのは天文17年（1548）に伊達氏が福島県桑折西山城から米沢に本拠地を移した時と考えられます。関ヶ原合戦後の慶長6年（1601）から上杉氏の居城となり、本丸・二の丸・三の丸からなる輪郭式の縄張りに整備され、明治4年（1871）に廃城となるまでの約270年間米沢藩の中核として機能し、城下町は現在の市街地の基盤となっています。

今回の調査は、宅地造成工事に伴い実施したもので、調査地点は堀立川に近い米沢城三の丸跡南西部に位置し、米沢藩士の屋敷地となっていた場所です。

検出遺構は溝跡2条、土坑6基、柱穴及びピット（小穴）25基、束石2基です。このうちゴミ捨て穴とみられる長軸1.9m、短軸1.8m、深さ70cmのSK4土坑から、長さ1.3mの大型ヘラ状木製品が江戸時代後期の陶磁器類と共に出土しています。調査範囲が限定的で、建物と認定できるような柱穴配置は認められませ

んでしたが、柱穴には柱が残存しているものや、細木を底面に敷いて柱の沈下を防いだと考えられるものがあります。

出土遺物は江戸時代後期のものが主体ですが、戸長里（米沢市内の陶器窯）や唐津・初期伊万里（佐賀県）といった戦国時代末から江戸時代初期の陶磁器類が出土しており、この時期に遡る遺構もあると考えられます。

米沢城跡周辺は宅地化が進んでいますが、本発掘調査が行われるケースは少なく、今回の調査は米沢城下での生活の一端がわかる貴重な機会となりました。（佐藤公保）



SK4 土坑遺物出土状況（南から）



第18次調査区全景（南から）



P20 柱残存状況（北から）

威徳寺北遺跡は、米沢市北部にある中田町地区にある、古代と中世・近世の2時期からなる複合遺跡です。本遺跡は、平成28年度に実施した分布調査によって新たに確認された遺跡ですが、宅地造成に伴い、今年度発掘調査を実施しました。以下、調査成果について、古代と中世・近世のそれぞれの時期に分けて述べていきます。

古代の主な遺構・遺物については、南北に延びる溝跡の底面から出土した須恵器の高坏すえき たかつきがあげられます。この溝跡は、両端を他の遺構や開田により削平を受けているため本来の長さは不明ですが、幅は約90cm、深さは40～50cmほどあります。溝跡からは、高坏以外に古代の遺物は出土しませんでした。また、調査区南端にある柱穴からは瓦が出土しました。なぜ柱穴から瓦が出土したのかは、今後の検討課題となります。ただし、調査区が狭いため、柱穴を構成する建物については確認できませんでした。

また、本遺跡は古代の置賜郡衙ぐんが（役所）跡と考えられている大浦遺跡群おおうらと笹原遺跡ささはらの中間地点に所在しており、それら重要遺跡との関係性に着目できます。



近世の池跡。手前が池跡、奥が池と繋がる水路跡です。池の斜面に貼石（赤丸部）が見られます。

中世・近世の主な遺構・遺物については、池跡があげられます。池跡の西側の斜面からは貼石はりいし状の集石が見られました。また、池跡からは瓦質土器片がしつが多数出土しました。小破片のため正確な器種は不明ですが、内耳土鍋ないじどなべや焙烙ほうろくの一部と考えています。その他、調査区全体から多数の柱穴や溝跡等が検出されましたが、調査区の範囲が狭いこともあり、各遺構の詳細な把握までは至りませんでした。

以上、調査によって、古代では瓦や須恵器の高坏といった遺物が出土したことから、大浦遺跡群及び笹原遺跡との関連が考えられます。中世・近世においては、池跡が検出されたことから、調査区は中世・近世の屋敷跡の一部であることが確認できました。（佐藤智幸）



高坏出土状況。南北に延びる溝の底から須恵器の高坏（赤丸部）が1点出土しました。



高坏（左）と瓦（右）。上の写真に写っている高坏と、柱穴から出土した瓦です。

# 山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	県内の主な遺跡 ●●：令和3年度発表遺跡(主要な時代を示します)		山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代	● 水林下 (遊佐町) 清水西 (村山市) 越中山 (鶴岡市) 上屋地 (飯豊町)	太郎水野 (金山町) お仲間林 (西川町) 金谷原 (寒河江市) 角仁山 (大石田町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年	縄文時代	章創期	日向洞窟 (高畠町) 火箱岩洞窟 (高畠町) 大立洞窟 (高畠町)		隆起線土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	
		早期	にひやく寺 (山形市) 月ノ木B (南陽市)	いるかい (尾花沢市) 赤石 (村山市)	竪穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	農耕牧畜が起る
		前期	高瀬山 (寒河江市) 柳山 (高畠町)	小林A (東根市) 吹浦 (遊佐町)	漆を使って文様を描いた土器がつけられる	落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる	トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュヨク成立(約6000年)
		中期	西ノ前 (舟形町) 水木田 (最上町) 台の上 (米沢市) 原の内A (尾花沢市) 小反 (鮭川村)	中川原C (新庄市) 西海測 (村山市) 熊ノ前 (山形市) 西向 (鶴岡市) 山居 (西川町)	計画的な大集落があらわれる	関東地方に貝塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する	どうもこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)
		後期	川口 (村山市) 小山崎 (遊佐町) かつば (最上町)	砂子田 (天童市) 蕨台 (酒田市) 町下 (飯豊町)	竪穴住居に複式炉が作られる	環状集落が発達する	
		晚期	● 杉沢C (遊佐町) 作野 (村山市) 玉川 (鶴岡市) 宮の前 (村山市)	釜淵C (真室川町) 北柳1 (山形市) 下叶水 (小国町) 蟹沢 (東根市)	中国製青銅刀がもたらされる	配石遺構がさかんに作られる	楔形文字が使われる(約3500年) ピラミッドが作られる(約2850年) インダス文明がおこる(約2500年) 殷王朝がおこる(約1600年) 孔子生誕(552年) 仏教成立(450年) アレクサンダー大王生誕(356年) 秦王朝がおこる(221年)
AD1年 300年	弥生時代	百刈田 (南陽市) 上竹野 (大蔵村)	生石2 (酒田市) 堂森 (米沢市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 環濠集落の発展	光武帝が匈奴に 金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年) 魏蜀蜀三國時代(220年)	
	古墳時代	● 長岡南森 (南陽市) 畑田 (鶴岡市) 川前2 (山形市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 物見台 (中山町) 南原 (高畠町) 廻り屋 (白鷹町) 梅ノ木 (山形市) 太夫小屋 (川西町) 板橋2 (天童市)	比丘尼平 (米沢市) 天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) 菅沢古墳 (山形市) 大之越古墳 (山形市) お花山古墳 (山形市) 土矢倉古墳 (上山市) 服部・藤治屋敷 (山形市) 高揃南 (天童市) 嶋 (山形市) 馬洗場B (山形市)	鉄製農具がつかわれた 県内最大の前方後円墳がつけられる 東北最大の円墳がつけられる	前方後円墳がつけられる 大和の土師器が全国に広まる	ゲルマン民族大移動(375年) 南北朝時代(439年)	
600年 700年	飛鳥時代	● 大在家 (高畠町) 安久津古墳群 (高畠町)	羽山古墳 (高畠町) 双葉町 (山形市)	湯殿山開山(605) 出羽郡が建郡される(708年) 出羽郡が設けられる(709年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年) 平城京に都をつつす(710年)	マヤ文明絶頂期(600年) 唐王朝がおこる(618年)	
	奈良時代	二色根古墳 (南陽市) 双葉町 (山形市) 壇山古窯跡群 (川西町)	牛森古墳 (米沢市) 大和山窯 (米沢市) 西町田下 (米沢市)	出羽郡が建国される(712年) 出羽郡が秋田村高清水岡に移転する(733年)	東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をつつす(784年) 平安京に都をつつす(794年) 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	李白・杜甫・楊貴妃らが活躍	
800年	平安時代	● 駒籠橋跡 (大石田町) ● 威徳寺北 (米沢市) 馳上 (米沢市) 山田 (鶴岡市) 小松原窯 (山形市) 平野山古窯群 (寒河江市) 道伝 (川西町) 堂の前 (酒田市) 大浦B (米沢市) 上高田 (遊佐町) 古志田東 (米沢市) 今塚 (山形市) 的場 (天童市) 清水 (村山市) 八反 (東根市)	城輪柵 (酒田市) 徳田 (酒田市) 八森 (酒田市) 泉森窯 (酒田市) 山海窯跡群 (酒田市) 大坪 (遊佐町) 下長橋 (遊佐町) 興野川原 (鶴岡市) 行司免 (鶴岡市) 蔵増押切 (天童市) 堀端・畑ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三条 (寒河江市) 落衣長者屋敷 (寒河江市) 三本木窯 (山形市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年) 荘園の成立	将門・純友の乱(935-939年) 藤原氏の全盛(1016年)	カール大帝戴冠(800年) アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる(918年) 宋王朝がおこる(960年) 神聖ローマ帝国の成立(962年)	
		鎌倉時代	● 上の寺 (寒河江市) 大樞 (遊佐町) 執行坂窯 (鶴岡市) 八幡一 (川西町)	長表 (山形市) 永源寺 (天童市) 七日台 (鶴岡市) 蓮華寺 (鶴岡市)	斯波兼頼が山形へ入部(1356年)	鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)
1400年 1500年	室町時代	柳沢A (鶴岡市) 小田島城 (東根市) 上野 (鮭川村) 藤島城 (鶴岡市)	高松II (寒河江市) 蔵増押切 (天童市) 安中坊 (西川町) 館山北館 (米沢市)	最上義光が最上家第11代 当主となる(1570年) 義光の娘・姫処刑される(1595年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	ルネサンス全盛 マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年)	
	安土・桃山時代	● 山形城 (山形市) ● 館山城 (米沢市) ● 左沢橋山城 (大江町) ● 天童古城 (天童市)	大宝寺城 (鶴岡市) 白鳥館 (村山市) 亀ヶ崎城 (酒田市) 谷地城 (河北町)	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年) 上杉鷹山、米沢藩藩主に(1767年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	東インド会社設立(1602年)	
1600年	江戸時代	● 山形城三の丸 (山形市) ● 寒河江城三の丸 (寒河江市) ● 高畑城 (高畠町) ● 米沢城 (米沢市) ● 新庄城 (新庄市)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 三条 (寒河江市) 南台 (長井市) 飛泉寺跡 (小国町) 坂ノ上 (山形市)			清王朝がおこる(1636年) アメリカ独立(1776年) フランス革命(1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位(1804年) リンカーンが活躍(1861年)	

